新春の箱根路に挑む！

スタートが間近に迫った第97回東京箱根間往復大学駅伝競走（2021年1月2～3日）。7年ぶり69回目の箱根路に挑む専大陸上競技部は、本戦に向けて最終調整に取り組んでいる。監督やエントリー選手の意気込み、関係者からの応援メッセージなどを紹介する。

第97回箱根駅伝

左 調整に励む部員たち
左 練習を見守るスタッフ

下級生の成長が刺激に

陸上競技部長　宮岡孝之

昨年から、1万㍍で29分台の記録を出した選手に部長賞を出すことにしました。今年の2年次生が1年次の時に5人が記録を出して、各選手に賞を手渡しました。この5人の成長は、各学年に刺激を与え、部全体の底上げになったと思っています。そして、主将をはじめ多くの選手が自己新で駆け抜けたことで、予選会を突破しました。

どれだけの専修大学関係者がこの結果を待ち望んでいたかを考えると、監督・コーチ、選手、そして今まで声援を続けてくださった方に感謝いたします。2021年の箱根での走りに期待して、

『新春の朝日に映える富士の峰
声援の先、駆け抜ける「S」』

新たな歴史作る

監督　長谷川淳

予選会後は各大学で行われた記録会への参加、12月の直前合宿など、調整に取り組んできた。

私たちは挑戦者。コース分析を進め、しっかりと選手の適性を見極めて、前半からレース展開についていけるような戦略を立てていく。選手、スタッフが一丸となって、皆さんの期待に応えられるような走りを見せ、専修大学の新たな歴史を作りたい。

選手支えるコーチ陣

フォームの修正点を伝える柴内コーチ

「良い形でスタートラインへ」

選手たちを心身両面から支えているのが、陸上競技部のOBでもある柴内康寛さん（平20経営）と、五ケ谷宏司さん（平22経営）の2人のコーチだ。箱根駅伝本戦に向け、柴内コーチは「選手たちが良い形でスタートラインに立てるように、全力でサポートする」と決意を語る。

両コーチは、長谷川淳監督（平19経済）とともに専大陸上競技部で練習に励み、3人とも箱根駅伝に出場。卒業後は実業団で活躍した。

2018年に就任した柴内コーチは、フォーム分析やマネジメントを担当。「動作を最適化することで、運動後に痛みが出ないといった効果がある。普段の歩き方を意識することで改善できる点もあり、日常から選手の動きに気を配り、アドバイスするようにしている」と話す。

今年度から指導にあたっている五ケ谷コーチは、15年の東京マラソンで日本人3位（2時間9分21秒）となるなどトップランナーとして活躍。トップレベルでの体験や練習方法などを選手たちに還元する。水泳トレーニングを調整に取り入れるなど練習に変化を与えている。「1秒でも良いタイムが出るように経験を伝えたい。卒業後も活躍できる選手の育成を目指して尽力していく」と語る。

選手にアドバイスを送る五ケ谷コーチ

エントリー選手紹介

各選手に氏名、学部学年、出身校、意気込みを直筆してもらった

応援メッセージ

選手たちの快走を祈る

理事長　日高　義博

コロナ禍にあって、陸上競技部が予選会を通過し、箱根駅伝に出場することになったことは、心躍る出来事でした。

7年ぶりの復帰でしたが、本学創立140周年の年に、オール専修の悲願であった箱根駅伝に復帰できたことは、うれしいかぎりです。復帰できたのは、選手たちの絶え間ない練習の成果であり、監督、コーチをはじめ関係者が一丸となって指導・支援されてきた証しです。これまでの尽力に感謝しております。

これからは心機一転、専修大学の襷をつなぎながら、箱根路を快走してください。選手たちの健闘を祈ります。

〝魅せる〟レースを期待

学長　佐々木　重人

陸上競技部の皆さん、第97回東京箱根間往復大学駅伝競走の本戦出場決定、おめでとうございます。皆さんが箱根駅伝に出場することによって、我々にもたらされる高揚感は、並大抵の大きさではありません。学生や教職員、卒業生、保護者、そして、地元地域の方々が、本当に喜んでおります。

予選会前のメディアによる予想では、本学は確実校、有力校そしてチャレンジ校と言われるチーム群にもリストアップされることはありませんでした。しかし、皆さんは、これまでの厳しい練習の成果を信じて、予選会第10位を勝ち取りました。第11位との差は、なんと18秒。最後まで諦めずに、一人一人の選手が自己タイムを1秒でも縮めることにこだわった結果ですね。

本戦でも、専大カラーの襷をつなぎ、魅せるレースを期待しております。挑め、新春の箱根路を!!

激戦突破に敬意を表す

校友会長　小宮　多喜次

全専修人が待望していた箱根駅伝への出場決定、誠におめでとうございます。今年は、今年、見事に激戦の予選会を突破されたことに心から敬意を表し感謝いたします。

来年の正月は、久しぶりにテレビの前でおいしいお酒を頂きながらの応援を楽しみしている校友が大勢いると思います。どうか、コロナ禍に負けないよう、また、初めて走る箱根路を楽しんでください。

全国からの応援を力に

育友会長　新澤　千佳子

陸上競技部の皆様、関係者の皆様、箱根駅伝7年ぶりの本戦出場おめでとうございます。コロナ禍での明るいニュース、とてもうれしく感じました。今年は練習環境を整えることが難しく大変だったと思います。その中での予選突破です。とても感激いたしました。皆さんの努力に頭が下がります。

育友会では、今年の予選会が無観客開催となったため、全国の支部役員、本部役員の協力により応援メッセージやイラストが書かれた70枚のハンカチを縫い合わせ、6本ののぼり旗にして届けました。全国の父母、保護者からの応援の気持ちです。力になってくれていたら幸いです。

本戦でもこの勢いでゴールを目指し、持てる力を遺憾なく発揮し、襷をつないでください。育友会も全国から応援しています。

本戦を控え、トレーニングにも力が入る＝11月14日、世田谷区立総合運動場陸上競技場

自宅でできる応援を提案

文・ジャーナリズム学科「プロジェクト」

http://www.greenworks.jp/project2020.html

齋藤プロジェクトのメンバー

文学部ジャーナリズム学科プロジェクト（齋藤実教授担当）では、自宅でできる箱根駅伝の応援を提案している。「コロナ禍で沿道には行けないけれど、アイデアを凝らし、陸上競技部だけでなく体育会や専大全体を盛り上げたい」と語る。

プロジェクトはアクティブラーニング学習として2年次で履修することが推奨されている。齋藤プロジェクトでは、体育会応援プロジェクトとして、7年ぶりの箱根駅伝本戦出場を受け、応援を盛り上げるアイデアを出すことになった。

齋藤教授が提示した課題の一つは、専大襷カラーの靴ひもの利用。数年前から体育館シューズ用に使われているが、今年度は対面授業がなかったため出番を失った。多くの学生に知ってもらい活用してほしいと、試行錯誤して靴ひもをアクセサリーに生まれ変わらせた。クリスマスリースのように仕上げた藤田実和さん（文2）は「簡単に作れるので身近なところに飾ってもらえれば」と話す。

さらに、ミニフラッグやペーパークラフトなど自宅で観戦しながら応援できるグッズも提案した。

また、ポスターを手作りし、12月4日から多摩区役所の箱根駅伝応援ボードに掲示。冨田真白さん（文2）は「QRコードから応援グッズをダウンロードして、ぜひ一緒に盛り上がってほしい。直接声援はかけられないけれど、選手たちに思いを伝えたい」と話している。

専修大学を応援しよう！

応援グッズがダウンロードできます！

文学部ジャーナリズム学科
プロジェクトB2020
陸上競技部応援サイト

箱根の山を駆け抜けて！

店舗の前で襷柄タオルを手に声援を送る栄作さん（右）と瞳さん

芦ノ湖で寄木細工の専門店を経営
中里　栄作さん（平18経営）
瞳さん（平21経済）

芦ノ湖の往路ゴール地点から程近い場所で、箱根寄木細工の専門店を営んでいます。店のすぐ前の通りを毎年、大勢の観客が埋め尽くし、選手たちが勢いよく駆け抜ける箱根駅伝は私たちにとって非常に身近な存在。しかも今回は、二人の母校である専大が出場するので今から楽しみにしています。

私たちの在学中は、専大は箱根駅伝の常連校でしたが、今回の出場は7年ぶり。大学の同期からも「久しぶりに出場を決めたね」と連絡があり、駅伝の話題で盛り上がりました。周囲からの期待が大きいぶん、選手の皆さんはプレッシャーもあると思いますが、楽しんで走ってください。箱根の山で待っています！

神田・生田に懸垂幕

生田キャンパス2号館に掲げられた懸垂幕

11月13日、陸上競技部の箱根駅伝出場を伝える懸垂幕が神田10号館に掲げられた。神田6号館の専大通り沿いには、応援を呼び掛ける専大カラーの懸垂幕を設置。また、生田キャンパスでも、7年ぶり69回目の出場を伝える懸垂幕を2号館壁面に掲げている。小田急線沿いの生田運動用地には横断幕を掲出した。

沿道での応援自粛のお願い

本大会の主催者である関東学生陸上競技連盟より、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、出場チームの大学関係者や応援団、OB・OG、保護者による来場および沿道での応援行為について強く自粛することを求められています。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いします。

出場校

専修大学
青山学院大学
東海大学
國學院大學
帝京大学
東京国際大学
明治大学
早稲田大学
駒澤大学
創価大学
東洋大学
順天堂大学
中央大学
城西大学
神奈川大学
国士舘大学
日本体育大学
山梨学院大学
法政大学
拓殖大学
※関東学生連合